



☆ 絵が珍しくて不思議で面白かった《100 まんびきのねこ・眠り姫・やまんばのにしき》

さて、みなさんはどんな記憶を思い出し、どんな印象をお子さんに与えているのでしょうか。

### (8) 絵本の犬をさがして

ブラッセルへの出張が決まったとき、「フランダースの犬」を訪ねようと思いました。

一週間の日程も無事終わり、土曜日の朝、心を弾ませて電車に乗りました。約30分でアントワープに着きました。市電に乗り換えて終点ホボケンに犬の銅像があるという。案内書ではそこですぐ分かるような書き振りでした。ところが、人通りも少なく、手当たり次第に聞いても誰も知らないというのです。近くのドラッグの店に入り、ハムのように太った親父さんに尋ねました。

「あなたは日本人か？」  
「どうして分かるの？」

「フランダースの犬をたずねてくるのは日本人だけだよ。」  
不思議そうな顔をしながら教えてくれました。

「この道を真っ直ぐにいけ。すぐに銅像が見つかるよ」

お礼を言ってスタスタ歩き出しました。ところがいつまでたっても着きません。「すぐ」と言われますと、せいぜい5分と思うじゃないですか。10分も歩きますと不安になってきます。20分も歩きますと、見過ごしたのではないかと自分を責めはじめます。しかし、アメリカでの体験で何度も同じような失敗をしています。通り過ぎたと思って帰ったりしますと、ほとんど思いすごしでした。私は日本人、悲しいか

なせっかちな日本人。それだけに、ぐっところえて歩き続けました。30分。

「あった。ネルロとパトラッシュだ」黒いブロンズ像。1mちょっと。予想外に小さいブロンズ像が、プレハブの観光事務所の前に建っていました。小学校1年生のとき読んでくれた担任の先生の、きれいなアルトの声が「パトラッシュ！」という口を尖らせた表情と共に、はっきりと記憶が甦りました。

「たしか風車があったはずだ」

銅像の真向かいのパン屋さんに入って聞きました。どうやら話は通じましたが、風車の場所は知らないと言います。

「ちょっと待ちなさい。高校生の娘がいるので英語もわかるし、場所も分かるだろう」

どこかに電話しています。やがて、娘さんがハアハアいいながら駆けつけてくれました。事情が分かり日本から来たのならということで、水車のある小学校までの行きかたを、丁寧に略図まで書いてくれました。

「この通り行けば直ぐに着きますよ」

地図を眺めながら歩き始めました。30分歩きましたが一向につき気配がありません。不安が湧き上がってきました。スポーツ公園で沢山のチームがサッカーの試合をしていました。その中の指導者に尋ねました。首をひねっています。突然、ホイッスルを吹いて全員を集合せました。大げさになってしまいました。ワイワイガヤ言っていました。結局、誰も知らないということでした。さすがに、気が滅入ってきました。しかし、絵本を読んでくれた先生を思い出すと、あきらめきれません。礼を言ってまた歩き出しました。梢に夕日がかけり始めました。

突然、後ろからクラクションが鳴らされました。50年配の紳士がおりてきました。

「風車を探している日本人はあなたか」

「そうですか」

「私の仲間たちが知らなくて申し訳ない。ここに小学校の地図があります」

地図を描きながら教えてくれました。じーんとききました。おそらくこの紳士も幼いとき「フランダースの犬」を読んでいたのでしょう。先生の読んでくれた絵本の水車に会えると思うと疲れた足どりも軽くなりました。



張江 幸男 (はりえ ゆきお)

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問

前全日本空輸(株) 海外子女教育相談室長、元三菱商事(株) 相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北日本人学校教頭



海外で子育て中のお母様方に、ぜひじっくり読んで頂きたい文章です。張江先生、ありがとうございました。

先生の意見に心から賛成します。今は成人した我が家の娘たちが1年ほど前、家内が「読み聞かせたときの表情や語調まで」をまねて、「ぐりとぐら」を自分達で読みあっていた場面を思い出しました。アメリカで生まれ育った彼女達が、うらやましいほどのバイリンガルに育った基礎が、この絵本の読み聞かせにあると、私達夫婦は確信しています。

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA

〒145-0064 東京都大田区上池台3-39-9

Tel:03-5754-2240 Fax:03-5754-2241

<http://www.jolnet.com/>